



国道340号立丸峠区間のトンネル整備について

【発表の要旨】

8月24日の岩手県大規模事業評価専門委員会による「事業実施妥当」の決定を受けた国道340号立丸峠区間のトンネル化について、これまでの歩みをご紹介します。

【発表の内容】

1 現状と経過

国道340号は、東日本大震災の際、緊急輸送道路に指定され、当市と宮古市、大槌町や山田町を結ぶ唯一の道路であったことから、津波により寸断された国道45号の代替路線として、自衛隊、消防、物資輸送などの多くの車両が通行するなど、緊急救急活動において重要な役割を担いました。

立丸峠は、幅員が狭小の上、急カーブが連続し、大型車両のすれ違いが困難であるとともに、落石の危険があるため、異常気象時の事前通行規制区間に指定されており、異常気象時には通行止めになるなど、安全で円滑な通行の支障となっています。

そのため、関係市町村と連携しながら、沿岸と内陸を結ぶ重要な路線であることを訴え続けてきました。

※これまでの活動の概要は裏面資料のとおり

2 報道発表の内容

岩手県大規模事業評価専門委員会は、8月24日、「立丸峠区間のトンネル整備事業の実施は妥当である」としました。

これを受けて県は、宮古市と当市を結ぶ「国道340号立丸峠区間」、全体延長4.9キロメートルのトンネル整備事業について、「復興支援道路」と位置付け、平成30年度の開通を目指し、9月定例県議会に測量費用など約1億円を盛り込む一般会計補正予算を提案する予定です。

3 全体の事業概要

総事業費は85億7,000万円で、事業期間は平成25年度から6年間を計画しているとのことです。

計画延長は4,930メートルで、計画幅員は5.5メートル。宮古市の国道106号から当市の国道283号までの通行区間は、すべて2車線になり通行時間が短縮されます。

立丸峠区間のトンネルは、遠野側の延長1.82キロメートル、宮古側の延長0.93キロメートルと2工区で計画されており、遠野側のトンネルを遠野土木センターが、宮古側のトンネルを宮古土木センターがそれぞれ整備する予定です。

担当	環境整備部復興道路整備支援室（菊池） 電話 0198-60-1520（内線 151）
----	---

【資料】

立丸峠トンネル整備に関する活動状況

年月日	場所	活動内容
昭和50年4月1日		国道340号整備促進期成同盟会設立 … 県、岩手河川国道事務所、東北地方整備局、国土交通省ほか、県選出国會議員に対し要望活動を実施（以降、毎年要望活動を実施。現在も継続中）。 現在の構成市町村は、陸前高田市、住田町、遠野市、宮古市、岩泉町、葛巻町、九戸村、軽米町、八戸市の4市4町1村。
平成4年	遠野市上郷町	赤羽根トンネル供用開始
平成8年10月9日	遠野ふるさと村	立丸峠トンネル整備促進懇談会設立総会 … 遠野市と川井村の2市村で設立し、トンネル化運動を強化。国、県等関係機関に要望活動を実施。平成10年に大槌町、平成11年に新里村、平成12年に宮古市と宮守村が加入
平成10年11月13日	立丸峠	トンネル化運動啓発看板設置 … 表示内容「立丸峠トンネル化早期着工を」
平成10年11月30日	遠野市土淵地区センター	立丸峠トンネル化整備促進住民大会の開催 … 平成13年まで遠野市と川井村の交互に住民大会開催
平成14年11月25日	あえりあ遠野	広域観光の道シンポジウムの開催 … 平成14年よりシンポジウム、フォーラム型式に変え、遠野市・川井村・宮古市持ち回りで平成21年まで毎年開催
平成21年11月4日	川井村	立丸峠トンネル化推進シンポジウム開催
平成22年8月5日	宮古市	立丸峠トンネル整備促進懇談会の組織再編について協議（大槌町平成22年10月26日協議）
平成23年3月11日		東日本大震災後方支援活動展開
平成24年6月8日		第2回大規模事業評価専門委員会（現地調査）
平成24年7月6日	盛岡市	立丸峠地域連携道路整備事業（トンネル化）を岩手県政策評価委員会に諮問
平成24年7月20日	盛岡市	第3回大規模事業評価専門委員会
平成24年8月24日	盛岡市	第4回大規模事業評価専門委員会 … トンネル事業妥当と決定（正式答申は9月中旬の予定）
平成24年8月25日	岩手日報朝刊	「立丸峠トンネル事業決定、2018年度開通を目指す」と報道